発行№１２３号 無限の可能性を追求する青春金物店 日本一金物 発行月日 平成１９年２月２０日

2007年 NIHONICHI TOPIX まいどうさん

No.123 株式会社 日本一金物 会報 3月号

「まいどうさん」で～す。日頃のご厚情感謝申し上げます。

「見る人の心、心に任せおきて、高嶺に澄める秋の夜の月」である。人の真似などしなくていい。自分は自分らしく生きることが大切である。

ショウベンハウエルは**「人生は不満と退屈との間を動揺する時計の振り子」**だといった。人と見比べてあれこれ思う以上、不満と退屈から逃れられないだろう。それでは誇りを持って生きられないだろう。「ぶらずに、らしくせよ」とはうまい言葉だ。「社長は、社長ぶらず、社長らしく、幹部は幹部ぶらず、幹部らしく」なのである。

「常に自分は自分らしく、偉ぶらず、高ぶらず、自然のままに振舞えれば、必要以上に人に気を使い、神経をすり減らすこともなく、人に過大評価を期待することもいらないし、自ら過小評価に身をかがめることもない」

自分らしく生きるという時、二つの柱をに心置く。一つは、思い邪（ヨコシ）まなし。もう一つは、施して畏（オソ）れなし、ということだ。前者は、心に邪気を抱かぬという誓い。後者は人に対する前向きの態度をいう。

美点が似てても、梅と桃と桜は違う、いずれが佳しとするかは人の心に任すしかない。梅と桃には実はなるが、桜は実はならぬ。何が特色か自分を知り得た時、自分らしく生き、誇りを持つことの意味が理解できるのである。

（前月号より）清水さんは「函食」に水飴を買いに来たことがあるし、配達もしていたので家は分かっている。

「どうして、黙って持ち出したの」井上社長の問いに、清水さんは「出来心で…」とひたすら頭を下げるばかりだった。心根の優しい井上社長、諭すだけでその場は収まって「持たせた」の私の疑いは晴れたが、どうにもすっきりしない出来事だった。

工場に入ると、すぐ左側が製品置き場になっていて、水飴の缶が並び、その奥に原料や空袋などが置いてあり、更にその奥が工場になっている。私と、工場で話をして、帰りがけ持ち出したのを奥さんに目撃されたわけだ。当然工場からは製品置場は見える場所でないのですが、一時的とはいえ疑いをかけられた思いが今尚、心に苦い思い出として残っている。

井上社長の水飴工場も一段落ついた頃、木下社長から連絡が入った。七重浜の方でイカのゴロから脂をとる仕事をするというのだ。

社長は、寿原産業というたが脱サラして工場を開いたと訊くと。名前は木下末七といって七人兄弟の末っ子に生まれたのでそんな名前を付けられたという。その名前が気に入らないので、後に「博行」に変えたとだ言って笑っていた。

工場を借りて、イカのゴロを煮る鉄釜（直径１．２メートル）を３個用意して作業にかかった。トラックやリヤカーで運ばれてきた、ゴロは高さ２メートルもある大樽に入れて、ポンプで鉄釜に移すという、後はゴロを数時間煮つめ、表面に浮いた脂をドラム缶に移す。残りは遠心分離機に掛けて、カスと脂に分ける。社長曰く、「作業は簡単で金になる」と言うが、大きな誤算が生じた。

大樽から鉄鍋にポンプで移すはずのゴロがスムースにいかず、すぐホンプ詰まってしまうのだ。ゴロの中にはイカの目玉も入っているので、硬い目玉が歯車の中に入りすぐ止まってしまう。ポンプの８本のネジを外し掃除する。またポンプを回すと先輩が苛ぐ詰まる。思うように鉄釜に移せないのだ。

立って、「これじゃ仕事にならん、“弘”樽に入ってバケツで汲み上げろ。俺が上で受け取るから」新鮮なイカゴロならいいとしても、２日も３日も経って臭くなったゴロの樽の中に入り汲み上げろというのだ。

（以下次号）

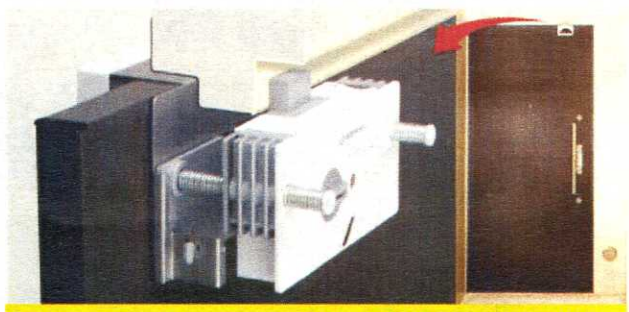
Hitachi Koki POWER TOOLS for PROFESSIONAL
㈱北海道日立 函館支店
函館市西桔梗町 858-5 TEL48-6411

Makita
ヒーマンハードウエアの ㈱マキタ函館営業所
北斗市七重浜 7-3-12 TEL49-9273

RYOBI
リョウビ販売㈱ 札幌営業所
札幌市豊平区平岸7-14 TEL812-3751

さらに上を行く!ナショナルの新世紀工具の紹介

リモコンで ピッドアから始まる・セキュリテー



工事不要・とっても簡単・即 取り付け可能!

ドアの上部に掛け、内、外調整!リモコンで、簡単にロックでき

詳細は社員にお尋ね下さい

安心・便利・快適のライフライン・
スタイリッュ・セキュリティの新時代

◆難関を突破するのは頭でない、全身にみなぎる気慨である!

生きている限り、思うようにならぬことが多い。辛いことや悲しいことはある。それがいやなら仏様になるしかない。死んでしまえば辛いこともなくなる。そのかわり楽しいこともなくなる。禍福はあざなえる縄のごとく、人間万事塞翁が馬だ。

良いと思ったことが裏目に出たり、悪いと考えたことが案外の好結果を生んだり、ケガの功名があったり、不測の災難があったり、その時々のことだけでは良い悪いを決めかねることもある。総決算が立派でないと、途中の幸、不幸などは一時の順、不順でしかない。その総決算をよくするために不可欠な条件は気慨である。

「富を失うといえども一部を失ったに過ぎない。名誉を失ったといえども一部を失ったに過ぎない。しかし、勇気を失えばすべてを失ったと同じである」とゲーテは言った。

電力王、松永安左衛門は、こう言った。

「気慨こそ必要、これさえなくさねば仕事は出来る。地位や金などはいくらでも出来る」困難に当って人が動く、どう動くかによってその人の考えや価値も分かる。むしろ人もあんな仕事に対する責任感によって勇気をふるい起こす。だがそれは他から迫られての勇気だ。それは今ここにいる。

言うまでもなく気慨とは少し違う。気慨は道理でも動くが、より利害で動くのだ。気慨は利害や損失を抜きにした、ソロバンを外したもの。考え抜いた上の思案、勇気よりも内心から込み上げてくるどうにもならぬ衝動だ。冒険心といってもいい。武田信玄が上洛の途中、家康の領国の北を通過しようとした。家康が黙認すれば三方ケ原の死闘は免れたろう。家臣は「衆寡敵し難し、御自重を」と諫めた。一人家康は目を怒らせて叫んだ。

「信玄坊主の不信、捨ててはおけぬ、敵に枕の上を踏み越さんばかりに攻めよせてくるぞ、起き上がりもせぬとあっては末代までの名折れだ、戦うぞ」それが三十一歳の男性的気慨である。

勝敗は天に任せ、利害損失のソロバンを捨てて、内心の命ずるところに従って起つ。それが英雄魂だ。

誇りを持つ人間でなければ叶わぬところだ。

石橋を叩いて渡る式の堅牢無比の家康だが、それだけでは天下は取れぬ。

名折れを突破するのは頭ではない。全身に漲る気慨なのだ。それは弱虫に誇りなし。

金物総合卸商社
㈱キムラ函館営業所
函館市西桔梗町 589-44
TEL(0138)49-5331

新潟金物卸商社
㈱高儀 札幌営業所
札幌市白石区中央1条3丁目-3-35
TEL(011)832-0295

新潟金物卸商社
㈱ナルミヤ札幌営業所
札幌市東伏古区1条3丁目-1-16
TEL(011)784-2244